

琉球大学学術リポジトリ

1972年の沖縄返還時の有事の際の核持ち込みに関する「密約」に係る調査関連文書No.2

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-15 キーワード (Ja): 核持ち込みに問題, ジョンソン次官 キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43897

103

極 秘
無 期 限
中 3 杯 の 内
3 号

極 秘
無 期 限

大臣
次官
森 審 議 官
田 中 大 使

条約局長
号車官
条約課長

別 添
P. 140 号
号 2 号

半信長 半北一長

東郷、ス+伊- / カ-アス 公 館 (松)

44. 10. 3

半北一長

同席者: 大河原 号 3 号, 半北一長, 安保課長, 4-ア 女史

日時: 10月3日 午前 場所: P. 140 号 局長室

本公館はカ-アス中程の核内問題の2012の
軍事的立場に基(見解)を取取 互目的と

概要 次のとおり。

(1) 先方の説明

先方述べたところ以下のとおり

(1) 太平洋総軍司令部の総合的観

70
① 在米公使館
② 条約局長
③ 半信長

(1) 地域的軍事能力 (米ソ対決中心の全在米の
能力と異なり、朝鮮、中東、SEATO 地域に特化)

その弾力性 (通商、技術能力の付加) 五
失をわたり、中心の圍心の二、二、二

の減退は米国の条約義務遵守決定を以て
しめ、相手側の挑発を招くこととなる。

(2) 南に沖縄基地を中心とする重要性を帯び
核力は充分の抑止力を併し、全をかけた
(既知の) (備え)

必要は全くないのに、RELOCATION は
程松先 (カ-アス) / 巨額予算 (誠公の
(カ-アス))

軍費削減の-1-1の提出は、極度に困難
の肉題 (カ-アス未決定) ありのわたり

と-1-1程にも沖縄に比し抑止力が弱
といは難いがある。

(1) 従って 自衛隊に与る政治的課題と、米側の
の軍事的要求とを、抑止力の有効性を

維持 (右が) 如何に妥協せしめ行く
か、が最高首脳部の決断課題とすべきである

(2) 新PIA政策と沖繩の歴史

(1) (スティーブソン) = フォン大統領、加リアン

島の開明 (右と) は (A) 米側の義務を尊重
し、そのための軍事負担を軽減せよとの意。(B) 核

戦争を止むに、程々の CONTINGENCIES に対する
米国の緊急維持の重要性を、(地元兵力
(これを削減す地球

(による局地的危険の軽減) があること、全般に
して減少 (右) は、これを打ち出すに、

(1) (右) は、これを打ち出す、一部周辺地域
への米軍の負担を削減すべし、中心即ち

沖繩) の力の維持は理の当然で、米側の
軍事計画立案 (自下而上に後継的財政

検査中) のキーポイントとある。

(3) 戦術核と通常兵力の在野米軍等

(1) ICBM 等が核戦力を形成し、かつ必要に
応じてあるとの俗論は誤りである。戦術核
(極端な便宜に通常兵力の増強が前提)
は極めて重要であり、特に「削減」の削減
は、トマホークは不可能な現在、その戦力維持の

ため、手持ちの戦術核に依存するはあり、

(2) (右) は、在野米軍の兵力削減計画

が明示的に除外され、今後長期に
亘り削減対象となっても、撤退はあり得ず

とし、韓国軍の戦力充実には注目が加わっている

(4) (右) は、上記の関連で、沖繩の核削減

か 韓国、ソビエト、オーストラリア、ニュージーランド、
シカゴ、ロンドン (11月1日) にも
及び、
在日米軍に充分考慮を払うこと

2. 当方意向の検討 先方説明

(1) 北朝鮮内戦 戦術核の役割

(2) (6月に渡った米側の西太平洋戦術核に備わった
7-11-1は、この核の役割はソ中との関連

におおむね一致している。北朝鮮は北朝鮮の意向
を述べ、この核は北朝鮮に知らずと述べて

たので、当方より一読せしめると(3) 御説
と一致して、北朝鮮の核能力は北朝鮮に存在

していることには同意がある。

(4) (北朝鮮に対し具体的に如何なる使用を戦術核

核は抑止力を発揮するかの意向は、

総合的な威力を行使する抑止力がある

(当方から意向を述べた時) 敵の大兵力集中
を断念せしめ、以て侵襲作戦を不可行

たしめると、敵の前線支援施設の破壊
場、前線防衛施設を破壊の端緒を

作り出すとある。大都市等人口密集地帯
の破壊は考慮されなければならない。なお北朝鮮軍は

ソ中から核弾頭を供与されたといわれ、
確実である。(ソ中の「不協定」を裁く)

(2) (ソ中の軍事評論家は「戦術核は使用

される。戦術核使用はソ中にとり、北朝鮮は
と実際上使用は行わず、能く抑止力行使

は明かされていない、この場合(3) 技術の進歩に
より、弾頭の小型化及び爆発力の適正化に努

まると全面核戦争にエスカレートせよとある

戦術核も使用する能力を備えていた。他方
米側としては大規模通商交渉は PROVIDE 出来

ないが、^{能力}戦術核の使用に^{能力}依存^{能力}として存在^{能力}
あり、米側の^{能力}能力は相俟つて^{能力}自給^{能力}
_(双方)

抑止力を形成している。米国としては^{能力}防衛意欲の減退

とみられ、^{能力}能力削減^{能力}は困難^{能力}
また(沖縄返還)2年後の早急情勢^{能力}
_(時期)

の^{能力}戦術核の必要量は^{能力}何とも予測し難い。

(3) 対中共同問題

(1) (日本は「米側が^{能力}削減^{能力}すれば^{能力}共同問題も
しつぱり^{能力}する、その^{能力}等^{能力}がある^{能力}」) せめて^{能力}早急^{能力}
に^{能力}おかしな^{能力}議論^{能力}、^{能力}現実^{能力}は^{能力}米側^{能力}が
削減^{能力}している^{能力}に^{能力}対し^{能力}、^{能力}中^{能力}は^{能力}切^{能力}能力^{能力}を^{能力}以^{能力}て^{能力}

向上せしめていた。

(2) (日本は「米側の核能力の巨大量に^{能力}対し^{能力}
中^{能力}抑^{能力}止^{能力}力は^{能力}明^{能力}か^{能力}自^{能力}ら^{能力}る^{能力}もの^{能力}あり、^{能力}従^{能力}つ^{能力}て^{能力}
沖^{能力}繩^{能力}の^{能力}核^{能力}を^{能力}撤^{能力}去^{能力}に^{能力}せ^{能力}たい^{能力}、^{能力}その^{能力}撤^{能力}去^{能力}は^{能力}
ありか^{能力}」) 中^{能力}は^{能力} RATIONAL^{能力}な^{能力}に^{能力}な^{能力}ら^{能力}ず^{能力}、^{能力}MISCALCULATION^{能力}が^{能力}あ^{能力}り^{能力}、^{能力}また^{能力}核^{能力}備^{能力}が^{能力}
_{中^{能力}は}

進^{能力}ん^{能力}か^{能力}10^{能力}年^{能力}先^{能力}の^{能力}制^{能力}通^{能力}し^{能力}も^{能力}つ^{能力}て^{能力}難^{能力}い^{能力}。核^{能力}撤^{能力}去^{能力}
法^{能力}に^{能力}つ^{能力}いて^{能力}は^{能力}、^{能力}兵^{能力}器^{能力}の^{能力}分^{能力}散^{能力}配^{能力}送^{能力}と^{能力}兵^{能力}器^{能力}
_{兵^{能力}器}

如何に^{能力}自^{能力}標^{能力}に^{能力}制^{能力}達^{能力}せ^{能力}し^{能力}よ^{能力}う^{能力}か^{能力}との^{能力}OVERALL^{能力}
右^{能力}側^{能力}美^{能力}と^{能力}考^{能力}え^{能力}ら^{能力}れ^{能力}る^{能力}。の^{能力}現^{能力}在^{能力}情^{能力}勢^{能力}に^{能力}対^{能力}し^{能力}て^{能力}

(4) X-2Bの撤去
(X-2Bの旧式化に伴い遠方^{能力}に^{能力}撤^{能力}去^{能力}する^{能力}との^{能力}

決定^{能力}は^{能力}否^{能力}か^{能力}?) なる^{能力}決^{能力}定^{能力}は^{能力}取^{能力}り^{能力}に^{能力}な^{能力}ら^{能力}れ^{能力}て^{能力}
兵^{能力}器^{能力}の^{能力}改^{能力}良^{能力}は^{能力}沖^{能力}繩^{能力}に^{能力}行^{能力}わ^{能力}れ^{能力}て^{能力}
いる。

3. 当方の発言及び先方意向に対する答

(1) 日本側の意向

当方等は 6月訪米の際の大臣発言を引用し
(有記)

日本と中国関係の継続、米軍削減の
必要の認識を述べ、互前協定制の適用

かつとも半島の軍事能力を弱体化させるとはな
と確信していると述べた上、沖縄の現状

と本土並みの唯一の差違は、戦闘作戦行動
の核に属する互前協定適用であり

それ以外の沖縄基地 ^(この点) ~~問題~~ としておぼしめる
の活動は 後節後といたして心配を ~~おぼしめる~~
なく、

戦闘作戦行動については 日本は共通の関心
を有しており、また核については NUCLEAR

OPTION から 本土、沖縄 については同じで維持する

此点と中国側の見解との差は、この点
合理的見解のみでなく 押し切られぬ

あることは事実である。核を撤去して
この地域にのみ自由世界の利益を守る
軍事的要請がみだされるか正見極めを
かあるか、米側からこの点自国と

日本側は大変困難な立場にたつて
ある。なお日本側と中国 軍事的要請

ARGUMENT を持たせたいと述べた

(2) 日本側の三原則を要する

(後節に準じ、凡百の改竄が不可なり)

以上に対し 先方より、日本側が求める三原則
が ~~必要~~ ~~必要~~ ~~必要~~ (核に付き米側と)

と伺うところ、先方より 返答の際の撤去
の再導入の際の事前協定が三原則

あり、他の面は MANAGEABLE と思う。今後
 今後 5-10年 のおか 国世論 の変化が
 みるべきであるが、返還の時 是れ以上述べた
 政治的 面 = マウ である と答えた。
 (2) 先方側の 意向 に対し、おかし としては 国民 には
 その おかし 国際 環境 には 教育 不能 である
 が、沖縄 返還 の 実現 は 是れ 是れ 容易 である
 と思 える と 指摘 した。

松本 経 済

(3) 防犯 方針 の 見方

先方 の 意向 には 答へ 当方 (米-日) 防犯 方針
 は 返還 交渉 自衛 隊 には 外務 省 当局 へ 情報
 して 与え たり、 是れ 内 閣 には 4 次 防 衛 計画
 沖縄 防犯 計画 の 予算 面 比較、 是れ 自衛 隊
 は 当方 の 非 公式 接觸 により 得 ら 印象 である。

純粋 に 早 返 還 の 見 地 からは 沖縄 の 概
 抑 止 力 の 離 脱 は 望 ま しい と して 政治 的
 には 大 問題 である、 是れ 是れ 自衛 隊 へ
 是れ 是れ 国民 の 支持 の 裏 面 がある
 是れ 是れ 痛 感 あり 是れ 是れ あり、 と 答 えた。